



読書週間ポスターイラスト大賞受賞作品 北村依緒さん(京都府)



ホントノキズナ

本との絆を結んでほしい。読書があなたの人生を深めてくれるからです。著者の真剣な思索が結晶したものが本です。読書によって、その真剣な思索の道を辿ることが出来ます。読書は、あなたの知識を増やし、考え方を深め、新しい見方を示してくれます。人生がうまくいかないとき、本を読んでもみることをお勧めします。本との絆が、あなたの人生をより良いものに変えてくれるかもしれません・・・

10月27日～11月9日は、

読書週間

読書週間とは

昭和22年、終戦の2年後、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、第1回「読書週間」が開催されました。

それから60年以上が過ぎ、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。一方、消費社会の進展により物質文明が豊かになるに従って、心の豊かさなどの精神文明の低迷が問題視されています。このようなことから読書の重要性は、ますます高まってきています。



とりあえず本を1冊読んでみよう

読書をしないという人も、この「読書週間」に、1冊の本を読んでみませんか。たった1冊の本があなたの人生を変えることだってあるのです。まずは書店や図書館で興味のある本を1冊手に取ってみる——そんな行動から、あなたの読書生活がスタートします。

特に青少年は本を読んでほしい。近年は、受験勉強や映像・電子メディアなどの発達で、ますます「読書」の時間が狭められています。しかし、たとえ情報化社会でも、それを動かす主役が人間である以上、活字を読むということは全てのメディアの情報を正確に読み取る基礎力となります。

読書が、あなたの知識と人格を育む基盤となるのです。

読書が苦手な人へ

読書が苦手な人は、いろいろ試してみましよう。自分に適した方法が見つかるかもしれません。

〈絵本を読む〉

大人にも絵本がはやっています。仕事や勉強で忙しい人も、絵本は10分もあれば、読めます。絵本からも大切なことを学ぶことができます。



〈声に出して読む〉

毎日、声に出して本を読んでみましょう。急がず、ゆっくり、自分のペースで音読します。すぐには内容を理解できないかもしれませんが

せん。でも、慣れてくれば、徐々に自分の声を聞いて、耳から本の内容を理解できるようになるかもしれません。



〈朗読CDを聞く〉

文字を目で追うことがどうしても苦手な人は、CD・カセットテープなどで朗読を聞くという方法もあります。声を聞いて意味を理解できます。一流の文学作品に浸ることが出来ます。



読書感想画展のお知らせ

9月までにご応募いただいた読書感想画を、秋の読書週間に合わせて展示します。

感動や思い出の場面を感性豊かに描いた作品が、今年もたくさん集まりました！

ぜひ見に来てください。

日程 11月6日(火)～11月11日(日)

*募集時の案内で10月26日(金)～11月4

日(日)と案内していましたが、都合により日時を変更しました。ご了承ください。

場所 図書館2階 ギャラリー

問い合わせ 市立図書館 ☎42・8000



図書館を利用しよう

●読みたい本を探すには

図書館内の利用者用端末または図書館ホームページをご利用ください。調べ方が分からない時や見つからない時は、職員にお尋ねください。

●本の予約

読みたい本が見当たらない時は予約をすることができます。貸出中の本は、返却されしだい連絡します。

連絡後1週間以内に借りてください。この期間を過ぎると予約は無効となります。所蔵していない本は、購入したり、他の図書館から借りたりして用意します。また、本によっては用意できない場合もあります。

※所蔵していない視聴覚資料の予約はできません。

●便利な自動貸出機をご利用ください

図書は貸出カウンターの外、自動貸出機でも借りることができます。使い方はとても簡単！1回の操作で最大10冊借りることができます。

☆DVDなどの視聴覚資料は自動貸出機では借りられません。初めて使うときや操作が分からない時は気軽に職員に声をお掛けください。



開館20周年の記念講演「人生を支える言葉」柳田邦男

福津市立図書館では、開館20周年を記念し、福岡県読書推進大会と共同で講演会を行います。

日時 12月2日(日)

13:30～16:00(13:00開場)

場所 市中央公民館ホール

講師 柳田邦男さん (ノンフィクション作家)

演題 「人生を支える言葉」

参加費 無料

定員 600人 (申込順)

希望される人は、申し込みが必要です。

申し込みは広報ふくつおしらせ版

10月15日号折り込みチラシの申込

書をご利用ください。

問い合わせ 市立図書館 ☎42・8000



この秋読んでほしい、
司書が勧めるこの8冊



●「遠い朝の本たち」須賀敦子 筑摩書房

あの本を読んでいた頃、人生がこれほど光と陰に満ちていることを私たちは想像もしていなかった。著者の精神の羅針盤となった本をめぐる物語。

●「ウォールデン・森の生活」ソロー 小学館

2年間にわたる森での生活を通して気づいたことを綴った随筆集。多くのモノに囲まれた今の生活に息苦しさを感じている人に読んでほしい。

●「ちくま日本文学全集35 寺田寅彦」筑摩書房

「天災は忘れた頃にやってくる」夏目漱石の弟子でもあった物理学学者・寺田寅彦は深い洞察力と豊かな表現力で優れた随筆を残している

す。今なお古びない文系サイエンス。テイスト寺田寅彦の著作集。

●「ほく」の村は戦場だった。」山本美香 マガジンハウス

今年8月、シリアを取材中に殺害された著者が、世界の紛争地の過酷な現実を弱者の視点から伝えて私たちの心を揺さぶります。

●「トムは真夜中の庭で」フィリップ・ピアス 岩波書店

友だちもなく退屈しきっていたトムは、真夜中に古時計が13時を打つのを聞き、昼間は無かったはずの庭園に誘い出されます。そこで不思議な少女と出会う。ファンタジーの傑作。

●「ボクたちに殺されるいのち」小林照幸 河出書房新社

家族の一員として可愛がられるペットがいる一方、捨てられるペットがいる。飼い主に見放されたペットはどうなるのか？

●「ちびゴリラのちびちび」ルース・ポーンスタイン ほるぷ出版

子どもも大人もみんなこんな風に愛されたい！

●「きこえる？」はいじまのぶひこ 福音館書店

静かな夜、耳を澄ませてこの絵本を開いてください。木々のざわめき、ひっそりと開く花びらの音、星の瞬き、あなたを呼ぶ声…。

福津市立図書館
貸出ベスト10
(4月・7月)



1. 「転迷」 今野敏 新潮社
2. 「マスカレード・ホテル」 東野圭吾 集英社
3. 「蝸ノ記」 葉室麟 祥伝社
4. 「刑事の子」 宮部みゆき 光文社
5. 「下町ロケット」 池井戸潤 小学館
6. 「赤い指」 東野圭吾 講談社
7. 「少女」 湊かなえ 早川書房
8. 「使命と魂のリミット」 東野圭吾 新潮社
9. 「プラチナデータ」 東野圭吾 幻冬舎
10. 「境遇」 湊かなえ 双葉社

どれも話題になった日本の小説です。

出す本全てがベストセラーの東野圭吾が10冊中4冊ランクイン！さすが皆さん話題作には敏感です。福岡県出身の葉室麟が直木賞を受賞した「蝸ノ記」で3位に。まっすぐに武士の信念を貫く主人公・秋谷の生き様は、私たちが魅了すると同時に、私たち自身の生き方をも問うているようです。50歳を過ぎて作家になった著者に興味を持った人は、随筆集「柚子は九年で」も小説と併せてお読みください。

この他、ベスト10には入りませんが、児童書では「かいじゅうたちのいるところ」「ねないこだれだ」「かいけつゾロリシリーズ」などがよく読まれています。

